

冬季特別展「心ときめく映画の世界」の展示解説を行います。

日時 1月31日(日)、2月14日(日)・28日(日) 1回目11:00~12:00、2回目14:00~15:00
 対象 小学生以上 参加費 無料(ただし入館料必要) 申込み 当日資料館受付にて申込み

イベントのご案内

体験教室

<p>1</p> <p>拓本体験</p> <p>日時 2月21日(日) 1回目 10:30~12:00 2回目 13:30~15:00</p> <p>場所 城陽市歴史民俗資料館 工作室前フロア</p> <p>講師 資料館職員</p> <p>対象 18才以上</p> <p>定員 各回4名</p> <p>参加費 300円(入館料を含む)</p>	<p>2</p> <p>火起こし体験</p> <p>日時 3月13日(土) 1回目 10:30~12:00 2回目 13:30~15:00</p> <p>場所 文化パルク城陽 西側付近</p> <p>講師 資料館職員</p> <p>対象 小学生以上</p> <p>定員 各回10名程度</p> <p>参加費 無料</p>	<p>3</p> <p>粘土でパズルをつくらう!</p> <p>日時 3月21日(日) 1回目 10:30~12:00 2回目 13:30~15:00</p> <p>場所 城陽市歴史民俗資料館 工作室前フロア</p> <p>講師 資料館職員</p> <p>対象 小学生以上</p> <p>定員 各回4名</p> <p>参加費 300円(入館料を含む)</p>
---	--	---

1・2・3共通 申込み 当日資料館受付にて申込み(先着順) 1回目 10:00~10:30 2回目 13:00~13:30

・イベント参加に際しては、発熱や風邪症状のある方はご遠慮ください。 ・マスクの着用にご協力をお願いいたします。



■開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 月曜日(祝休日の場合は開館)
 祝休日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
 12月28日~1月4日

■観覧料 おとな 200円(140円)
 小・中学生 100円(70円)
 <団体料金>おとな 160円(110円)
 小・中学生 80円(50円)
 ※団体は20名様以上
 ※(*)内はプラネタリウムとの共通観覧の場合の資料館観覧料

<次の方は観覧料が免除されます>
 ★城陽市内在住の65歳以上の方
 ★城陽市内在住の小・中学生
 ★城陽市内在住の身体障害者手帳等をお持ちの方
 ★城陽市外の小・中学校の団体観覧(ただし、児童・生徒のみ)



資料館マスコット「ごりごりくん」
 ごりごりくんは心優しい豪族ゴリラです。「五里五里の里」の「ごり」とその語感からゴリラをキャラクター化したものです。古墳・遺跡の多い城陽市の特徴から古墳時代を思わせる姿になっています。

五里ごり館 開館カレンダー 印は休館日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土								
						1	2	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6										
	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13								
	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20								
	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27								
24	25	26	27	28	29	30	28							28	29	30	31												
31																													

五里ごり館通信



五里ごり館

城陽市歴史民俗資料館(文化パルク城陽 西館4階)
 〒610-0121 京都府城陽市寺田今堀1番地
 TEL 0774-55-7611 FAX 0774-55-7612

令和2年度冬季特別展

心ときめく映画の世界



滝葉館(寺田村当時の映画館)前での記念写真 昭和4年(1929年)頃

令和3年1月23日(土)~3月21日(日)

最終日3月21日は入館無料!

期間中の休館日 1月25日、2月1・8・12・15・22・24日、3月1・8・15日

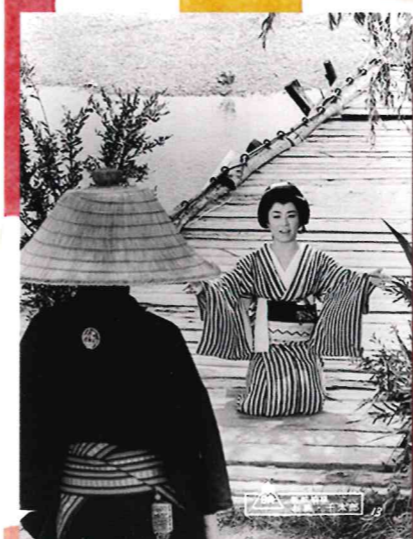
冬季特別展関連事業

手作りワークショップ

①3月7日(日)
 「映画をモチーフにしたキーホルダーをつくらう!」
 ②3月20日(土・祝)
 「パタパタアニメーションをつくらう!」
 ①②共通
 時間 1回目13:30~14:15 2回目14:30~15:15
 場所 資料館工作室前
 講師 資料館職員
 対象 小学生以上
 定員 先着各日8人(各回4人)
 参加費 無料(ただし、入館料必要)
 申込み 当日1回目13:00~13:30 2回目14:00~14:30
 資料館受付にて(定員に達した時点で終了)

第87回文化財講演会

テーマ 「京都の映画館文化」
 日時 3月14日(日)14:00~15:30(受付13:30~)
 場所 文化パルク城陽 第3会議室(西館3階)
 講師 立命館大学映像学部 教授 竹田章作氏
 定員 先着40名
 参加費 無料
 申込み 3月2日(火)10:00から(定員に達した時点で終了)
 電話・来館・当館ホームページにて申込み



『新蛇姫様 お島千太郎』(C)東映
 美空ひばり主演 昭和40年(1965年)
 (ロケ地「木津川の流れ橋」)

入館・イベント参加に際してのお願い

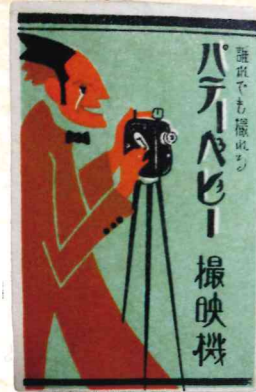
・マスクの着用をお願いします。
 ・発熱や風邪の症状がある方は入館をご遠慮ください。
 ・今後の状況により、イベントを延期または中止する場合がありますので、その際は当館ホームページでお知らせします。



ゴジラの逆襲

手描き看板 個火提供 昭和32年(1957年)作品

日本映画のはじまり



パテーベビー撮映機のマッチレット



マキノ省三先生像(等持院境内)

幕末の動乱から明治維新、江戸から明治へと時代が変わり、日本の政治、産業、文化は変革を余儀なくされました。特に京都は東京遷都に関わって10万人もの人口流出が起こり、大きな影響を受けました。そのような京都を活気づけるため、官民一体となって産業の近代化を図ることとなります。そのうちの一つに、京都からフランスへ留学した染織技師が「シネマトグラフ」という機械を見て、写真が動くという技術に驚き、日本に機械を持ち帰りました。これが、日本の映画(活動写真)の始まりです。

時には戦争を伝え、時にはドキドキ・ハラハラやワクワクをもたらす映画を見るために、多くの人々が映画館へと足を運びました。昭和初期の時代劇ブームの時期には太秦を中心とした多くの撮影所が造られ、京都は「日本のハリウッド」とも称されました。そしてそれらは新京極と西陣を中心とした二大興行街へと発展していきます。

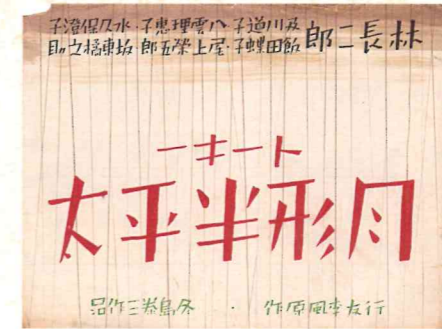
また、多くの名優たちがその上を駆け抜け、時代劇のロケに欠かすことのできない「木津川の流れ橋」は、その成り立ちに城陽市と深い関わりがあります。今回の展示では、京都を中心とした日本の映画の歴史を紹介するとともに、市域における映画文化との関わりについて展示します。



缶入りの35mmフィルム

いま、私たちの生活は再び大きな変化を余儀なくされています。「新しい生活様式」のなか、ほんのひととき、心がワクワクする展示となれば幸いです。

手描きポスターと マッチレット(ラベル)



『月形半平太』(林長二郎主演) 昭和9年(1934年)



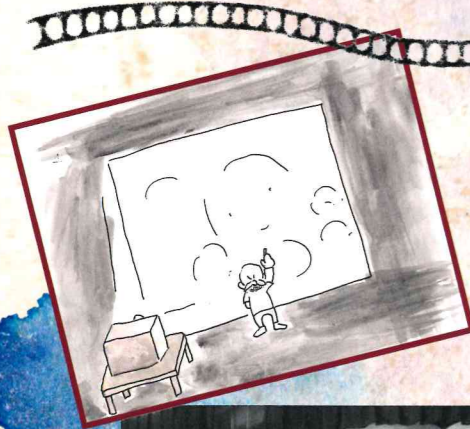
※左側は、ポスター(個人蔵)
右側は、マッチレット(ラベル)



『月よりの使者』(入江たか子・高田稔主演)
昭和9年(1934年) 夷谷座で公開



手描き看板の世界 ※看板写真はすべて個人提供



『ウエストサイド物語』 昭和37年(1962年) 松竹座

ロケ地・城陽

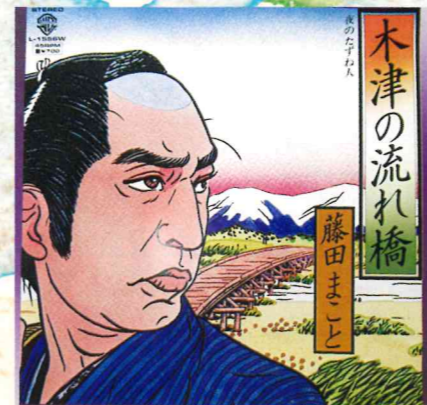
時代劇と流れ橋



流れ橋での撮影風景 山城北土木事務所 提供



『將軍家光の乱心 激突』 ©東映
緒形拳主演 平成元年(1989年)



『木津の流れ橋』レコード 個人蔵



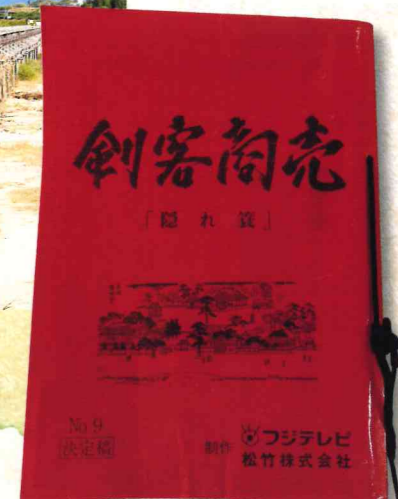
『忠次売出す』(月形龍之介主演) 昭和10年(1935年) 夷谷座で公開



流れ橋(八幡市側から)



『風と共に去りぬ』
昭和36年(1961年) 京極東宝



『剣客商売』台本 井上昭氏 蔵